

校種：小学校
学年：第4学年
学校：福島市立福島第三小学校（作成者：福島第三小学校 教諭 蒲倉 賢）
カリキュラム・マネジメント ○ 総合的な学習の時間を軸にした教科等横断的な実践 ○ 地域の人・もの・こととの関わりを重視した実践
実践テーマ 地域にある信夫山を題材にした総合的な学習の時間「信夫山の宝物」を軸にした教科等横断的な実践
単元配列・活動内容等の概要 4月～5月 信夫山に関わりのある人と会う。 6月～7月 信夫山の動植物や歴史、施設など様々な視点から調べる。 8月～9月 興味・関心に応じた計画による情報収集を繰り返す。 10月～11月 森林の専門家と安達太良山を散策することで、信夫山について考え直す。 12月～1月 信夫山をより宝の山になるよう活動する。 2月～3月 「宝の山信夫山」についてまとめ、発信する。
実践に係る人・もの・こと ・本校5年生 ・信夫山振興会 ・福島市水道局 ・森の案内人 ・ストリートふくしま ・信夫山（動植物 おみさか花広場 羽黒神社 たんたら清水 伝説岩 烏ヶ崎） ・安達太良山



《実際》

4月～5月



〈信夫山は宝の山なのかな〉

昨年度信夫山を探究した5年生から信夫山の特徴や魅力を聞いた子どもたちは、どんな山なのか興味をもち、調査活動に行くことになった。おみさか花広場で活動中、信夫山振興会の方と出会う。そこで「今からレンギョウを植えるんです。おみさかには黄色い植物がないでしょう。10年後みんなが大きくなったらレンギョウを見に来てほしい。信夫山は福島の宝の山だから。」と話を聞く。何年も先まで魅力ある信夫山にしたいと願い、活動する地域の方と出会うことで、さらに身近に感じた信夫山を調べていこうと意欲を高めた。学級では、信夫山振興会の方が語った「福島の宝の山」という言葉について話し合い、「どんな宝があるのだろうか」と学習課題を設定することになった。

6月～7月

調査活動をしたい場所として、おみさか花広場や羽黒神社、伝説岩、たんたら清水などが挙げられ調べるようになった。調査活動を重ねていくと、「山の奥の整理されていない自然がよい。」「道や植物が整理された自然のほうがよい。」など、各々が感じたことを伝え合った。景色をテーマに「木があると邪魔で福島市が見えない。」「でも、森林を楽しんでいる人もいたよ。」「森林を見たい人もいるんじゃない。」など、集めた情報を比較しながら学習に取り組んだ。

教科横断  
社会科「水はどこから」

そんな中、たんたら清水でカニを発見した。「カニが住めるほど水がきれいなのではないか？」という疑問をもったため、教師は福島市水道局の方に水質を調べてもらう場を設定した。すると汚れがほとんどないことが分かる。社会科で学んだ浄水場の仕組みや福島市水道局の出前授業と関連付け、「信夫山の土壌が雨水を濾過して、たんたら清水の水がきれいになっているのではないか。」と考えたり、「虫もカニも住める信夫山ってすごいね。自然が豊かでとてもパーフェクトな山だ!」と信夫山への思いを深めたりすることができた。



〈たんたら清水にカニがいた〉



〈信夫山も水を濾過しているのかも〉

しぜんが たくさんで とても パーフェクトな **しのぶ山**

**理由** ましが いっぱい いて いけしきもよくて とてもきれいな おみさか花広場 があるから パーフェクトな 山です。

〈信夫山はパーフェクト〉

10月～11月

ほとんどの子どもたちが、「信夫山は宝の山である」というイメージをもっていった。教師は信夫山の課題にも目が向くように、**森の案内人の方と安達太良山**において森林学習を行った。

森の案内人から山の自然の見方を事前に教わり、森林の育ち方や草花、動物、信夫山との違いを知ることができた。クマヤリスの生活痕を見たり、小川の源流を巡ったりしたことは、信夫山では味わえない学習であった。

森林学習後改めて信夫山へ行って気付いたことを話し合った。子どもたちは、「トンボが減ってきた。冬が近づいてきたからかな。」「木が倒れていて、動物が少なくなったのではないか。」「木が切られているけど、整理している人はいるのか。」「おみさか花広場が荒れていた。」などの問題点が挙がった。ある子どもは次のように学習を振り返った。



〈安達太良山はどんな山かな〉

信夫山は、三小の窓からいつでも見ることができていいです。今は紅葉しかけていて好きな花が枯れてしまったけど、わたしが思うそのままの信夫山です。福島の代表だといえます。あと整理されている自然とそのままの自然に分かれているので、2つ楽しめるのでおすすめできる山です。だからゴミのポイ捨てはゆるせません。

教科横断  
理科  
「季節と生物」

季節ごとの身近な動物や植物の成長の様子と季節の変化に着目し、それらを関係付けながら調べるなど、理科の学びを活用しながら探究することができた。また、上記の子どもは「三小から見ることができる福島代表の山」と綴った。安達太良山を満喫したけれど、改めて信夫山へ思いを寄せた。安達太良山と比較することで、いつでも見られて行ける、地域の人に関わっている山として魅力を再認識し、ゴミのポイ捨てを許せないという思いを表出させた。

12月～1月

地域

ゴミの調査をするために信夫山へ登ると、子どもたちは道路沿いや人の集まる施設周辺にゴミが多いことに気付いた。調査の途中「安達太良山には人がいないからゴミがないんじゃないか。」と声があがった。そこで、「自然の手入れ」と「集客」という視点で、どんな信夫山を目指したいのか意見を交流することになった。子どもたちは、「自然が元気でみんなに愛される信夫山」になってほしいと語った。ゴミは捨ててほしくないが、人の手入れにより自然を守り、信夫山に来たたくさんの人にそのよさを知ってほしいという願いをもっていった。

子どもたちは、ゴミ拾い活動に取り組み、ゴミを捨てないように呼びかけるポスターを作った。その後、信夫山の植物がさらに元気になるようにと願い、**信夫山振興会**の会長と一緒に**羽黒神社**旧参道にチューリップの球根を植えた。ある子どもはチューリップ球根を植えた帰り道、三小のみんなに信夫山の植物のよさを伝えようと、色づいた葉を持ち帰った。



〈信夫山の落ち葉もきれい。  
三小のみんなにも伝えたい。〉



〈羽黒神社旧参道が花いっぱいになりますように〉

### 《児童生徒の変容、資質・能力、形成された概念等》

1年間の学習を振り返って

- みんなの意見が違うことがあって、面白かったです。似ている部分を見つけて学習を進めることができました。ぼくは、これからもどんな山よりも植物がいっぱいの信夫山でいてほしいです。
- 信夫山振興会の方が言っていた宝が本当にあるのか、何度も山に行って探しました。自然や伝統がたくさんあって、会長さんが活動を続けている意味がわかりました。草むしりなどこれからもお手伝いできることがあったらやりたいです。
- 森の案内人さんから昔より動植物が減っていると聞き、心配して活動に励みました。少し問題点があってもきれいな水で人や動物を集め、みんなから愛される山であってほしい。よい点と問題点がからみ合っているのが宝の山なのかもしれない。

地域の人の願いや5年生と自分たちの学びを積み重ねることによって、信夫山の様々な問題を解決しようと粘り強く探究活動に取り組むことができた。地域の人・もの・ことと関わることを通して、地域への愛着を高め、信夫山の宝物をさらに輝かせたいという願いをもって、学んできたことを活用したり関連付けたりしながら、課題を解決することができた。